

# わたしの

ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第19号 2012/7

## 特集 生態展示室～昆虫たちの暮らしぶりを展示する～



# ほっとパーク昆陽池

## 昆陽池公園のチョウ その4 タテハチョウ科

タテハチョウの仲間は、林の中にくらす種類が多いグループです。昆陽池公園ではこの10年間に12種の記録があります。

(坂本 昇、角正美雪)

### ■テングチョウ *Libythea lepita*

昆陽池公園では春に最も早くあらわれるチョウの一種です。頭部の前につく口ひげが長いので、「天狗」の名がついています。



テングチョウ

### ■ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

ほぼ世界全域で見られるチョウです。幼虫はヨモギなどが食草です。



ヒメアカタテハ

### ■アカタテハ *Vanessa indica*

花だけでなく樹液にも集まります。カラムシ、ヤブマオなどが食草です。



アカタテハ

### ■ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas*

幼虫はエノキを食し、成虫はクヌギなどの樹液に来ているところを見つかることがあります。昆陽池公園ではあまり多くありません。



ヒオドシチョウ

### ■ホシミスジ *Neptis pryeri*

はねを水平にしてすべるように飛ぶチョウです。白い横のすじが目立ちます。幼虫は街路樹や生け垣などにされるユキヤナギの葉を食べるためか、市街地で増えているといわれています。



ホシミスジ

### ■ルリタテハ *Kaniska canace*

林の中で見られ、樹液に集まります。はねの裏側が落ち葉のような模様で、擬態のかくれた名手です。昆陽池公園では林のまわりでよく見られます。



ルリタテハ

### ■ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

伊丹市内に多いチョウのひとつです。幼虫がスミレ類を食べるため、ひらけた場所や花壇でよく見られます。



ツマグロヒョウモン (オス)



ツマグロヒョウモン (メス)

### ■ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

林の中で見られ、樹液に集まります。食草はエノキで、秋には幼虫が木から地面へ移動し、落ち葉にかくれて冬をすごします。



ゴマダラチョウ

### ■コムラサキ *Apatura metis*

林で見られ、樹液に集まります。オスのはねは紫色に輝きます。食草はヤナギ類です。



コムラサキ

### ■ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*

はねの目玉もようが特徴的なジャノメチョウの仲間です。昼間は日かげにいたることが多く、樹液に集まります。



ヒメジャノメ

### ■クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

うす暗い林の中にいます。はねをとじているとまるで枯れ葉のように見えます。成虫で越冬します。



クロコノマチョウ

### ■アサギマダラ *Parantica sita*

渡り鳥のように長距離を移動するチョウで、春に北上し、秋に南下することが知られています。昆陽池公園でも5月ごろと10月ごろに少数が飛来します。



アサギマダラ

# むしムシ虫眼鏡

## Vol.19 国蝶は里山の横綱

樹液の出る場所は、多くの昆虫にとって大変魅力的なレストランです。ゆえに昆虫たちの仁義なき闘いが日夜繰り広げられています。この樹液バトル、夜の部の王様はカブトムシで文句無しとして、昼の部はどんな虫がチャンピオンだと思いますか？一般的にはオオスズメバチとされるようですが、私は日本の国蝶としても知られるオオムラサキを推します。しかし、大型とはいえチョウが毒針を持つスズメバチに勝てるのでしょうか？心配無用！樹液にいる先客の昆虫たちを、筋肉の発達した太く立派な体でぐいぐいと押しつけ、大きくてぶ厚いはねを羽ばたかせながら追い払う姿は迫力満点！オオスズメバチを前にしても互角以上に立ち回り、一步も退きません。武器は使わず「素手」で相手を負かす姿は、まるで相撲取りのよう、いや「横綱」と言ってもいいでしょう。また強いだけではなく、オスのはねにある光沢が青紫色に輝く様子は、強さ、風格、そして美しさ、全てを備えた魅力的なチョウと言えるでしょう。（奥山清市）

<オオムラサキ>

学名：*Sasakia charonda*

分類：チョウ目タテハチョウ科

前翅長：50-55mm

分布：北海道、本州、四国、九州



オス：前ばね・後ばねの付け根側の青紫色が美しい

メス：はねに光沢がなくオスより大きい

# 亜熱帯の温室から

## Vol.19 バナナ

熱帯アジア原産のバナナは、食用としてなんと紀元前よりヒトの手で栽培されてきました。より甘く、より大きく、種子ができない（原種のバナナは種子が多い）果実が収穫できるように系統選抜や品種改良が行われ、現在ではたくさんの品種が世界中で栽培されています。チョウ温室のバナナの高さは1.5mほど、葉も大きくて木のように見えるのですが、実は草本（そうほん）なのです。直径20cm近くにもなる茎に見える部分は実は茎ではなく、葉の付け根が集まった葉鞘（ようしょう）でできています。本当の茎は地中にあり、ふくらんでいるので塊茎（かいけい）と呼ばれます。バナナは果実ができあがるとその株は枯れてしまうのですが、次の子株が地中の塊茎より伸び出して再び育ちます。

2012年6月現在、チョウ温室のバナナはたわわに実っているので、写真の株はもうすぐ枯れることでしょう。しかしご安心を、温室にはバナナがもう1株あります。バナナの実はいつでもスー

パーなどで見ることができますが、植物としては一年中温暖な地域以外ほとんど見ることができないので、ぜひチョウ温室まで見にお越しください。（田中良尚）



バナナの花

たわわに実っています

<バナナ>

学名：*Musa sp.*

分類：バショウ科

# 生態展

## ～昆虫たちの暮らし～

生きものだけでなく、生息する環境も同時に再現する展示が生態展示です。伊丹市昆虫館では、生息する珍しい虫たちまで、様々な昆虫たちの多様な暮らしぶりをじっくりと観察

### 生きている昆虫は大事な展示資料

伊丹市昆虫館では、昆虫の持つ面白さや不思議さを来館者の皆さんに伝える事を目的に、様々な活動を行っています。昆虫の標本や写真、本やぬいぐるみなども大切な資料ですが、昆虫館の主役は何といっても生きている昆虫たちです。



マレーシアに生息するコノハムシの生態展示

当館自慢のチョウ温室に入ると、約14種1,000匹のチョウたちが飛び交い、花のミツを吸う姿や、求愛・産卵の様子を見る事ができます。そして生態展示室では、森や草むら

ら、水の中など様々な環境に暮らす生きた昆虫たちの姿を、ガラ

ス越しにじっくりと観察できます。

ひとつひとつの展示ケースはとても小さいので、カブトムシの展示ケースならクヌギの木、バッタならエサにも隠れ場所にもなるような草を入れて、虫たちの居心地が少しでも良くなるような工夫をしています。



ツダナナフシの生態展示

そして、できるだけ自然のままの生き生きとした姿で、虫たちが歩いたり、跳ねたり、泳いだり、じっとしたり、食べたり、うんこをする様子を皆さんにお見せしたいと考えています。

### 展示昆虫の出身地はいろいろ

#### 関西の昆虫たち

生態展示室の昆虫たちは、その原産地（もともといた場所）によって3つに分ける事ができます。まずは伊丹など関西地域に生息する、私たちにとって身近な昆虫たちです。

カブトムシやオオクワガタなどの雑木林のスターたちから、朽ち木を食べるオオゴキブリ、タガメやゲンゴロウなどの水生昆虫まで、とにかくバリエーション豊かです。季節に合わせて、トノサマバッタやキリギリス、オオカマキリやゴマダラカミキリなども登場します。

ならない昆虫館にとって、心強い味方と言えるでしょう。西表島にのみ生息するイリオモテモリバッタ、ミズスマシでは日本最大のオキナワオオミズスマシ、ツダナナフシなどが観察できます。



オキナワオオミズスマシ

#### 外国の昆虫たち

かつては図鑑でしか見る事ができなかった、憧れのヘラクレスオオカブトムシなどの外国のカブトムシやクワガタムシ、輸入や飼育に農林水産大臣の特別許可が必要なコノハムシなど、日本には生息していない昆虫たちを展示しています。大きさ、美しさ、形態の不思議さにおいて、日本の昆虫とはひと味違う、まさにワールドクラスの昆虫たちがそろっています。



トノサマバッタ



数が減り関西では珍しくなったゲンゴロウ

#### 沖縄の昆虫たち

チョウ温室と縁の深い沖縄の昆虫たちも、生態展示室には欠かせない仲間です。沖縄は冬も温かく冬眠する必要がないため、繁殖や何世代にもわたる長期間の飼育が比較的簡単なのです。年間を通して生態展示を維持しなくては



虹色に光り輝くニジイロクワガタ



熟練スタッフも葉っぱと間違えるコノハムシ

# 展示室

## しぶりを展示する～

丹市昆虫館の生態展示室では、伊丹でも見られる身近な昆虫たちから遠い外国に  
する事ができます。

### 1年 = 365日。虫たちの命をつなぐための飼育作業



飼育作業の様子、世話をする昆虫によって必要な餌や器具が異なります

スタッフがバックヤードと呼ぶ生態展示室の裏側では、2～3名のスタッフが毎日欠かさずに飼育作業を行っています。生態展示室の展示昆虫は約30種300匹ですが、裏側ではなんと約50種13,000匹もの昆虫たちを飼育しています。

例えばツダナナフシの場合、卵がふ化するまでおよそ3～4ヶ月、6回の脱皮を経て成虫になるまでにさらに5～6ヶ月かかります。常に10匹程度の成虫を生態展示するために、幼虫・



生態展示室の人気者、ツダナナフシ

成虫あわせて80～100匹をバックヤードで飼育し、卵も300個ほど管理しています。大変な手間ですが、こうしてやっと元気な成虫

を1年中展示する事が可能になるのです。

飼育の基本は、エサを与え、乾燥していたら霧吹きをし、ケース内の死がいやフン、エサの食べ残しを掃除する事です。しかし、昆虫は種類が多くそれぞれ生態も違うため、虫に合わせて飼育方法を変える必要があります。わかりやすいのはエサの違いでしょうか。バッタ類ならイネ科などの草、カブトムシは樹液の代わりに昆虫ゼリー、カマキリには生きたコオロギやガ、タガメには生きた小魚など、毎日のエサの用意だけでも一苦勞です。ほかにもまだまだあります。虫たちが夏の暑さで弱らないように、昼だけでなく夜も温度管理を行ったり、気温の低くなる冬には、ふ化しやすくなるように卵を暖めたり……。こうした地道な作業の積み重ねが昆虫の命をつなぎ、年間を通して生態展示を継続する力になっているのです。



霧吹きは大切な作業のひとつ



カブトムシの飼育・繁殖作業の様子

### 暮らしの中での虫との出会いへ

生態展示室の昆虫たちは、学校園を対象にした授業プログラムや、夏の特別展の人気コーナー「虫とのふれあい屋台」などで、生きた教材として大活躍しています。生きている昆虫の手触り、重量感、歩く姿やユニークな仕草は、写真や映像、標本からだけでは決して感じる事ができない貴重な体験です。

当館に足を運んで頂いた皆さまが、生態展示やふれあい体験を通じてホンモノの小さな生命を感じ、昆虫たちも人間と同じ環境に暮らす仲間なんだという事に気づいて頂けたら、こんなに嬉しいことはありません。

昆虫は私たちに様々な事を教えてくれます。自然の大切さや生物多様性、生き残るための知恵と工夫、そして季節の移り変わり

や地球温暖化による環境の変化など、体は小さいけれどなかなか博学の先生なのです。

たかが虫、されど虫。昆虫と共存しながら、昆虫に学ぶ場所が昆虫館です。虫たちとの出会いが、皆さんの日々の生活をより深くより豊かにしてくれる事を願いながら、私たちは生態展示室の裏側で、日々昆虫たちを大切に育てています。(野本康太、奥山清市)



いたこん☆カーニバル名物「虫のふれあい屋台」

# 【さいきんの

## ミュージアムスタート@いたみ

本紙第17号で、0～2歳児連れのみなさまに昆虫館を楽しんで頂くための取り組みを紹介しましたが、これを一緒におこなった「子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会」が兵庫県子育て元気アップ活動助成を得て、新たな取り組みをおこないました。「ミュージアムスタート@いたみ」と題して市内の博物館ぐるみでおこなうプロジェクトです。

ひとつは0・1・2歳児連れ親子対象のプログラムで、伊丹市立こども文化科学館、伊丹市立伊丹郷町館、そして当館でおこないました。当館では「はじめまして・おおむしくん」と題し、キッズプラザ大阪プランナーの八尾詩子さんと当館学芸員が、子どもたちとアゲハの幼虫との出会いの時間をすごしました。保護者の方にはその様子をアルバムにまとめていただき、こちらも力作ぞろいとなりました。

もうひとつは、「ミュージアムスタートガイドブック@いたみ2012」の発行です。これは伊丹市内のミュージアムを0・1・2歳児と楽しむためのヒントが詰まったガイドです。ぜひ手にとって、市内のミュージアムを子育てに役立ててください。受付にて無料で配布しています(残部がなくなり次第終了します)。



「はじめまして・おおむしくん」の様子

(坂本 昇)

## モンキアゲハの飼育、ふたたび

モンキアゲハは、後ばねにある白い模様が特徴の大型のアゲハチョウです。昆陽池公園でも近年ちらほら見られるようになりました。もともと昆虫館のそばのカンキツ畑にはナミアゲハ(アゲハ)、クロアゲハ、ナガサキアゲハの3種類がくらししており、春から秋にかけて、ときどきカンキツ畑で幼虫をつかまえて育てています。

2009年9月のある日、飼育スタッフもびっくりな出来事がおこりました。クロアゲハのラベルをつけたさなぎから、なんとモンキアゲハが羽化したのです。すっかりクロアゲハだと思い込んで飼育していた幼虫の中に、モンキアゲハが数匹混じっていたようです。幼虫の姿が似ているの

と、昆陽池にはいないだろうという思い込みから、見過ごしてしまっていたようです。その後、翌年1月まで3世代にわたり計41匹を飼育し、チョウ温室で展示しました。

そしてこの春、昆虫館そばのカンキツ畑で久しぶりにモンキアゲハを発見しました。羽化直後の個体や飛翔するもの、産卵中のメスなど複数が見つかりました。さっそく産卵中のメスを捕獲し、強制採卵に成功しました。5月末現在、50匹ほどの幼虫がふ化しており、順調に育てば6月下旬頃には羽化します。それらは、もちろんチョウ温室で展示する予定です。よく目立つ白い紋をみせながら飛びまわるモンキアゲハを、みなさまに観察していただけたと思います。お楽しみに!

(角正美雪)



モンキアゲハの幼虫  
(帯の色は紫がかった褐色で、中央で途切れる)



クロアゲハの幼虫  
(帯の色は茶褐色で、中央はつながっている)



ナガサキアゲハの幼虫  
(帯の色は白色)



モンキアゲハのオス成虫



さなぎの形： 左) ナガサキアゲハ 中) クロアゲハ 右) モンキアゲハ

# 飼育室から

## カブトムシ新成虫ぞくぞく羽化



さっそく生態展示中のカブトムシ

ただいま昆虫館ではカブトムシが順調に羽化し始めています。昨年の秋の時点で3齢幼虫を約300匹飼育していました。半数は昆虫館の室内で、残りは屋外の日陰で冬越しさせました。暖かい室内で飼育した幼虫たちは冬の間も成長を続け、2月頃から蛹室を

つくりはじめ、3月から7月現在にかけて順調に羽化してきています。

生態展示室では一足早く、夏の雑木林の王様カブトムシの展示が始まりました。そしてバックヤードでは早くも次世代の卵や幼虫が誕生しています。屋外で冬越しした幼虫はこれから蛹になり、ちょうど7月頃に成虫になって出てきます。夏の展示やふれあいの虫として活躍してくれることと思います。どうぞお楽しみに。  
(野本康太)

## ミツバチの展示が復活しました！

5月上旬、2階学習室にセイヨウミツバチの巣箱の展示が復活しました。昨年の秋、ミツバチの幼虫をめあてに襲来したスズメバチによるダメージで全滅して以来半年ぶりです。窓際のガラス越しに巣箱が設置され、巣門から飛び立ったり、両方の後ろ脚に花粉ダンゴをつけて



ただいま巣のメンテナンス中(撮影 堺 勝重氏)

帰ってくる働きバチの様子が観察できます。セイヨウミツバチはここ数年騒がれていた蜂群崩壊症候群(ほうぐんほうかいしょ

うこうぐん ※)の影響なのか、昆虫館の群れにおいても、春先に子育てを始めてからの勢いが悪く、働きバチの数が増えずに十分なミツや花粉を集められないまま冬をむかえたため、冬越しできませんでした。巣箱の周りの地面で成虫が歩き回って死んでいくなどの異変も見られていました。今回新規に導入した群れは今のところ元気に活動し、しっかりミツや花粉を集め子育ても行っています。まだ採蜜をしたり、観察会を開催したりできるほどの群れではないですが、いつでも元気なミツバチを観察していただけるよう見守っていきたいと思います。  
(野本康太)

※ 養蜂家が飼育するセイヨウミツバチの群れが突然いなくなる現象で、確かな原因はいまだわかっていないが、過度の商業利用による疲労や栄養失調、病原体や免疫不全、ダニ、農薬の影響などが考えられている。

## むしT新作コレクション2012



展示用に製作したミニTシャツが壁をうめつくしました

「むしT」は伊丹市昆虫館オリジナルの昆虫写真Tシャツで、印刷のクオリティが高いだけでなく洗濯にも強いのが特長です。今回、プチ展示「むしT新作コレクション」(会期：2012年6月7日～7月2日、場所：2階学習室)に合わせて、新作75点(昆虫64点+昆虫以外11点)がラインナップに変わりました。カブトムシやオオムラサキなどメジャーどころもありますが、注目はアケビコノハやムシクソハムシ、アカハネナガウンカなどマイナーな昆虫たちのTシャツです。着こなすのはなかなか難しいかもしれませんが、いたこん以外にはありえない、通にはたまらない逸品かと思います。  
(奥山清市)

## 夏休みは「いたこん☆カーニバル 2012」へ

夏の特別展は、昨年に引き続き、好評の虫と人間の夏祭り「いたこん☆カーニバル」を開催いたします。

大人気の虫とのふれあい屋台をはじめ、みて・さわって・楽しめる昆虫屋台が展示室にならびます。期間中は特別イベントも盛りだくさんです。期間は7月18日から9月2日まで。

みなさまのお越しをお待ちしています！  
(坂本 昇)



## 新しい学芸員が仲間入りしました

2012年4月に昆虫館付となりました、学芸員の田中良尚(たなかよしなお)です。異動前は(財)伊丹市公園緑化協会事業課で11年間、緑化普及・啓発係を担当していました。ユリ類や高山植物を愛する「園芸屋」と見せかけて、実はクワガタムシ、特に南西諸島に生息するマルバネクワガタ類を非常に愛し、その生態



奄美大島の原生林にて

を追い続ける「マルバネ屋(自称)」です。温室管理担当ですので、「いつも色とりどりの花がたくさんチョウ温室」づくりができるよう、日々努力していきたいと思っています。(田中良尚)

## プチ展示「日本のクワガタ」

プチ展示「日本のクワガタ」を、7月4日(水)から9月2日(日)まで、2階学習室で開催します。日本産クワガタムシ全43種、そしてほぼ全種類の標本が大集合!こんな展示、他にはありません!クワガタ好きも、そうじゃない方も必見の展示です。(田中良尚)



「日本のクワガタ」展示の様子

ノギリクワガタ属の標本箱



ヤヤママルバネクワガタ

## もよおしあんない

8月

※8月は毎日開館+開館時間1時間延長

- 4(土) 昆虫標本の作り方講座 予約制
- 12(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
- 19(日) 伊丹市昆虫館友の会出展
- 23(木) 夏休みむしむし相談室

9月

- 3(月) 臨時休館
- 15(土) チョウ温室ガイド
- 22(土) 秋の原っぱで虫さがし 予約制
- 30(日) こも巻き調査 予約制

10月

- 6(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
- 14(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
- 21(日) チョウ温室ガイド
- 28(日) ドングリカー作り

11月

- 3(土) みんなで飾ろう! さなぎツリー
- 18(日) ふれあい体験「むしさんこんにちは」

12月

- 2(日) チョウのりんぶんでんしゃ
- 9(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
- 23(日) うらがわ探検

1月

※元旦から開館いたします

- 1(火) チョウ温室ガイド
- 1(火) ~ 3(木) 新春ちようちよみくじ・昆虫館オリジナル福袋販売

### 特別展

7/18 ~ 9/2 いたこん☆カーニバル 2012

### 企画展

9/5 ~ 11/12 伊丹の昆虫と自然  
11/14 ~ 2/25 外来生物  
2/27 ~ 5/13 テントウムシ

### プチ展示

7/4 ~ 9/2 日本のクワガタ  
9/26 ~ 10/15 むしのこえ  
10/17 ~ 11/12 カイコ  
11/4 ~ 12/24 さなぎツリー  
11/21 ~ 1/28 いもむし・けむし  
1/1 ~ 1/14 チョウ温室のラン  
1/30 ~ 3/4 友の会活動紹介  
3/6 ~ 5/20 虫の質問いろいろ

### 講習会・観察会の申込方法

- くわしい内容は... 申し込むには...
- ・伊丹市内に在住の方  
「広報伊丹」をごらんください。  
※広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。  
電話での問い合わせは掲載以降に案内します。  
※広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでご覧になれます。
  - ・伊丹市外に在住の方  
電話でお問い合わせください。  
※講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までに  
お問い合わせください。
  - ・往復ハガキ、FAX、Eメール(携帯電話不可)で。  
行事の名前、参加する全ての方のEメールアドレスなどを記入し、受付期間内にお送り下さい。
  - ・申込多数の場合は抽選になります。
  - ・往復ハガキの宛先住所  
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館  
・FAXの宛先番号 072-785-2306  
・Eメールアドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

〒	参加希望の講座名
返信	参加希望者全員の 名前・学年(年齢)
あなたの住所 氏名	住所
	電話番号
	(往復ハガキ・表)

〒664-0015	伊丹市昆虫館
返信	伊丹市昆陽池3-1
	何もしないで ください
	(往復ハガキ・裏)

## 編集スタッフより

最近、いもむしの可愛さがやっとうわかるようになりました! むしTの次はいもむしグッズを作ろうかな...。(おくやま)  
今年の夏の目標は、意外に収蔵数の少ない伊丹市内のセミの標本をたくさん作ることに! とくにミンミンゼミとヒグラシが採れたらぜひ昆虫館へ!(ながしま)

表紙写真 生態展示室をのぞき込む児童たち 撮影:奥山清市

次回(第20号)発行は、2013(平成25)年2月頃の予定です。

いたこんニュース 第19号 Vol.10 No.1 (通巻19号)  
2012(平成24)年7月発行  
発行 伊丹市昆虫館  
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内  
TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306  
URL: http://www.itakon.com/  
E-mail: ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

編集 奥山清市・長島聖大  
デザイン原案 pico\*pictures  
印刷 アイシー印刷株式会社